

学校選択制の現状に関する調査・分析結果について (西淀川区)

1 目的

本市では、大阪の教育力の向上、充実を図り、教育の振興を推進し、子どもたちの最善の利益を図るため、子どもや保護者の意向に答えていく必要があるとの観点から、平成24年度に学校選択制の制度化を行いました。

地域の実情に即した制度とするため、具体的な制度の方針案を区ごとに策定し、平成26年度入学者から小学校6区、中学校12区で開始。その後、順次、実施してきており、平成31年度入学者からは、小学校・中学校ともすべての区で実施しています（生野区の一部を除く）。学校選択制を利用して通学区域外の学校に就学した児童生徒の割合についても、年々増加している状況となっており、制度として定着してきていますが、制度の導入から年数が経過していることから、検証を行う必要があります。

平成26年度の制度導入時に小学校で学校選択制を利用した児童・保護者が、令和2年度に初めて中学校入学時に学校選択制を利用することとなることから、このタイミングを捉え、導入時の「熟議」や「就学制度の改善」において期待されていたメリットや懸念されていた課題について、今後の各区及び市全体において必要な改善を行うための材料の一つとして役立てるために、調査・分析を行いました。

2 調査・分析の視点

調査・分析にあたっては、学校選択制導入時の「熟議」や「就学制度の改善について」で期待されたメリットや懸念された課題をふまえ、今後の大阪市の学校選択制を考える上で考慮すべき項目として、次の項目を全区共通の調査・分析の視点として設定しました。

- 【視点①】 学校選択制の満足度はどうか
- 【視点②】 子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができるか
- 【視点③】 子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったか
- 【視点④】 特色ある学校づくりが進んだか
- 【視点⑤】 開かれた学校づくりが進んだか
- 【視点⑥】 児童生徒の通学の安全に課題が生じていないか
- 【視点⑦】 学校と地域、保護者の連携に課題が生じていないか
- 【視点⑧】 区や学校が提供する情報ではなく、風評等による学校の選択がなされていないか
- 【視点⑨】 学校選択制による児童生徒数の増減で、教育的課題が生じていないか

3 調査・分析データ

大阪市では、平成26年度の制度導入より毎年保護者アンケートを実施し、保護者の学校選択理由などを経年的に把握しているところです。

今回の調査・分析を行うにあたり、9項目の「調査・分析の視点」を設定し、各項目の分析に必要な質問を従来の保護者アンケートに追加するとともに、新たに地域団体関係者を対象とするアンケート調査、小中学校を対象とする学校選択制の状況調査を行いました。また、制度導入時からの、学校選択の状況や希望調査票の提出状況についてもとりまとめ、分析に活用しています。

【アンケート調査】

保護者アンケート＝令和2年度に区内の市立小・中学校に入学した児童生徒の保護者全員を対象に実施

※学校選択制導入時（平成26年度）～昨年度（令和2年度）に入学した児童生徒の保護者に実施したアンケート調査結果も使用。

地域団体関係者アンケート＝地域団体役員等を対象に実施。

【学校状況調査】

区内の全市立小学校・中学校を対象に実施

【運用状況データの活用】

学校選択制によって通学区域外の学校に就学した者の割合、希望調査票の提出状況など

4 アンケート調査等の実施時期・回収方法など

【保護者アンケート】

令和2年6月下旬に各区役所から学校を通じてアンケートを保護者に配付。

(学校からの配付基準日：6月22日)

回収は区役所あて7月17日までに返信用封筒で送付。アンケートは無記名。

【地域団体関係者アンケート】

令和2年度に、会議などを通じて、地域団体の役員等に配付し、回収。

【学校状況調査】

令和2年度に、1つの学校あたり1枚の調査用紙を配付し、回収。

5 アンケート回収状況

(保護者アンケート)

	配布数	回収数	回収率
小学校	719	378	52.6%
中学校	716	301	42.0%

(地域団体関係者アンケート)

	配布数	回収数	回収率
地域団体役員等	31	20	64.5%

(学校調査)

	配布数	回収数	回収率
小学校	13	13	100.0%
中学校	4	4	100.0%

6 調査・分析結果

2ページ～25ページのとおり

※本報告書の構成について

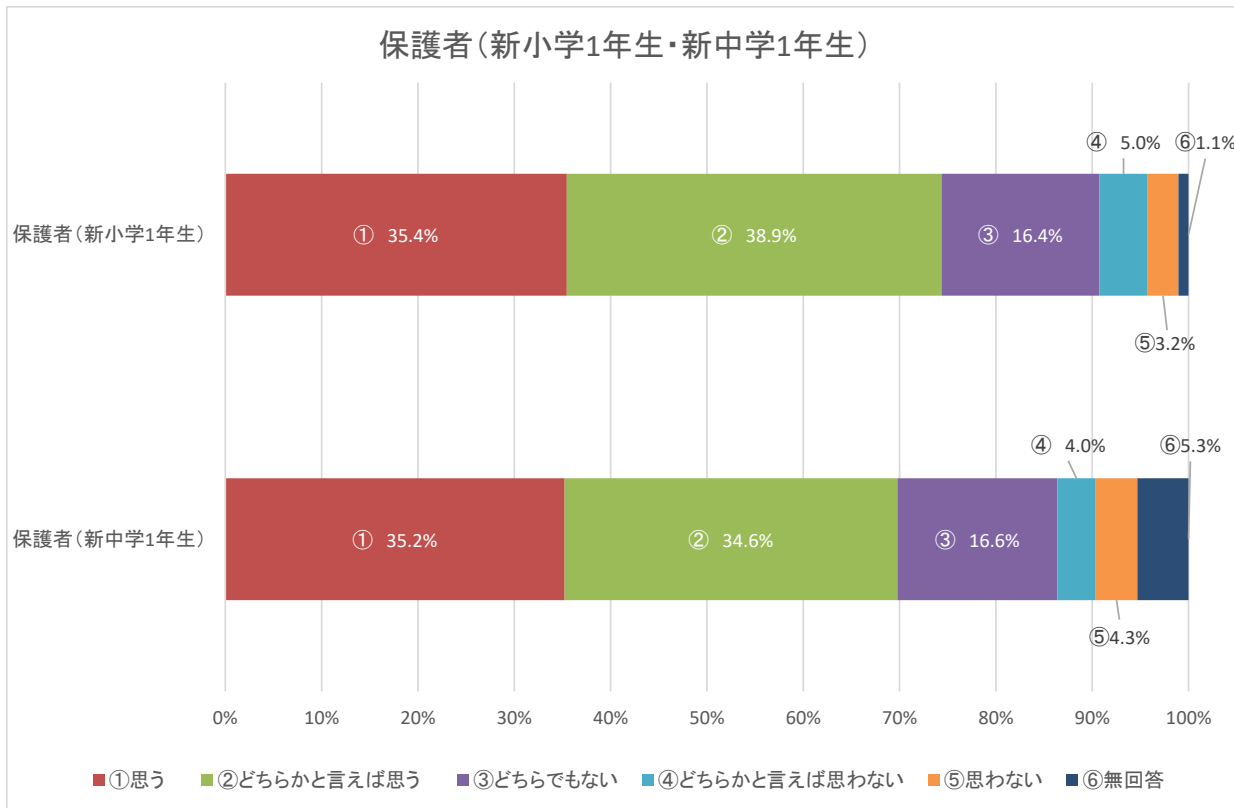
本報告書では、「調査・分析の視点」の各項目にそって、アンケート結果および学校状況調査、運用状況データの調査・分析結果をとりまとめています。アンケート結果にかかる報告書への掲載データは、一部抜粋して示しております。各アンケートにおける、結果の詳細については、「資料編」をご覧ください。

調査・分析結果

【視点①】 学校選択制の満足度はどうか

①学校選択制は、大阪市の子どもや保護者、大阪市の学校教育にとって良い制度だと思いますか。
【保護者アンケート（新小学1年生）：問20、保護者アンケート（新中学1年生）：問27】 <1つだけ回答>

ア) 全体



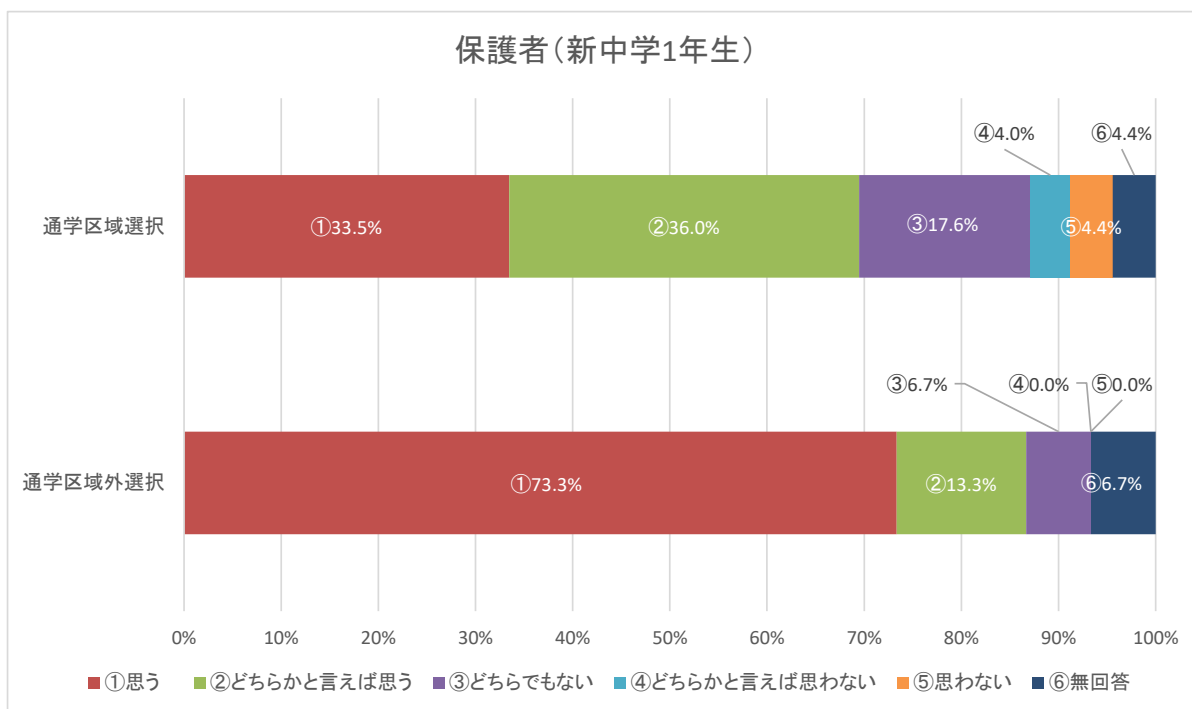
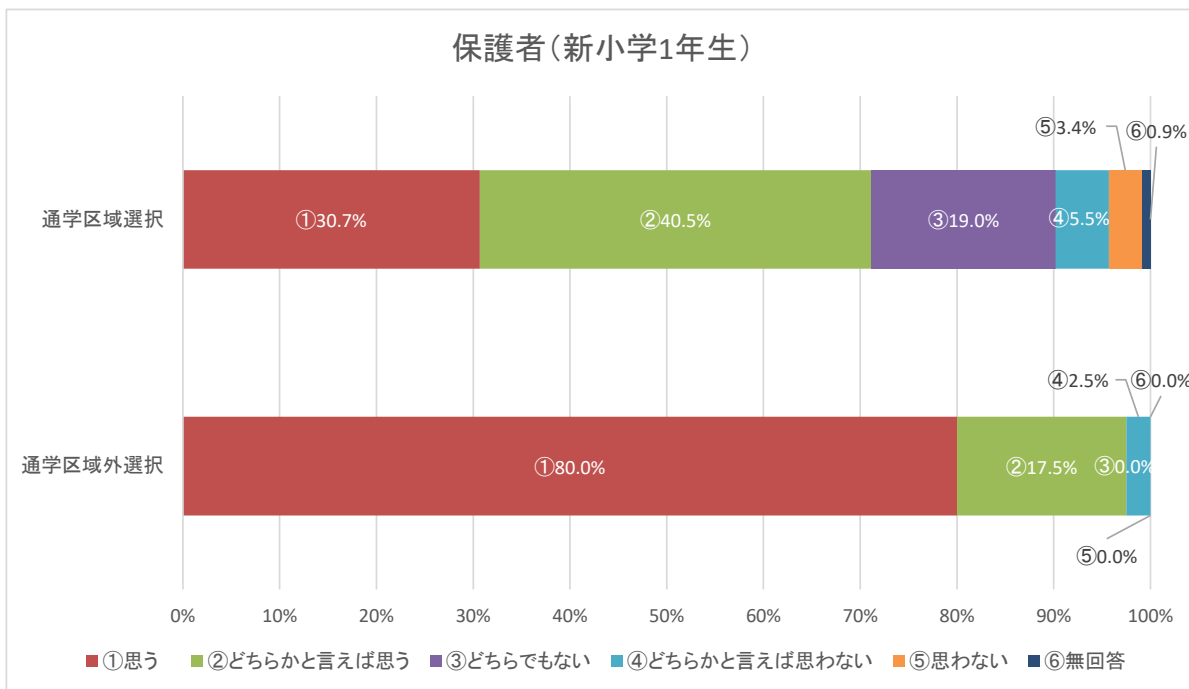
（分析）

「思う」「どちらかと言えば思う」との回答が、保護者（新小学1年生）で74.3%、保護者（新中学1年生）で69.8%の方が、良い制度であると回答している。また、「どちらでもない」との回答が、保護者（新小学1年生）で16.4%、保護者（新中学1年生）で16.6%となっている。

【理由】

- 「思う」「どちらかと言えば思う」（新小学1年生）
 - ・幼稚園や保育園で仲良かった友達と同じ学校に通えるため
 - ・学校の教育方針や通学距離等を考慮し、子どもにとってよい学校を選択できるため
- 「思わない」「どちらかと言えば思わない」（新小学1年生）
 - ・義務教育の間は校風で決める必要はないため
 - ・学校選択制により人数が少なくなる学校があるため
- 「思う」「どちらかと言えば思う」（新中学1年生）
 - ・部活動や教育方針などで子どもに合う学校が選べるため
 - ・友人と同じ学校に行きたい、または別の学校に行きたいと思ったときに選択できるため
 - ・通学路を考慮して決めることができるため
- 「思わない」「どちらかと言えば思わない」（新中学1年生）
 - ・義務教育の間は校風等で決める必要はないため
 - ・学校選択制により生徒の増減があるため

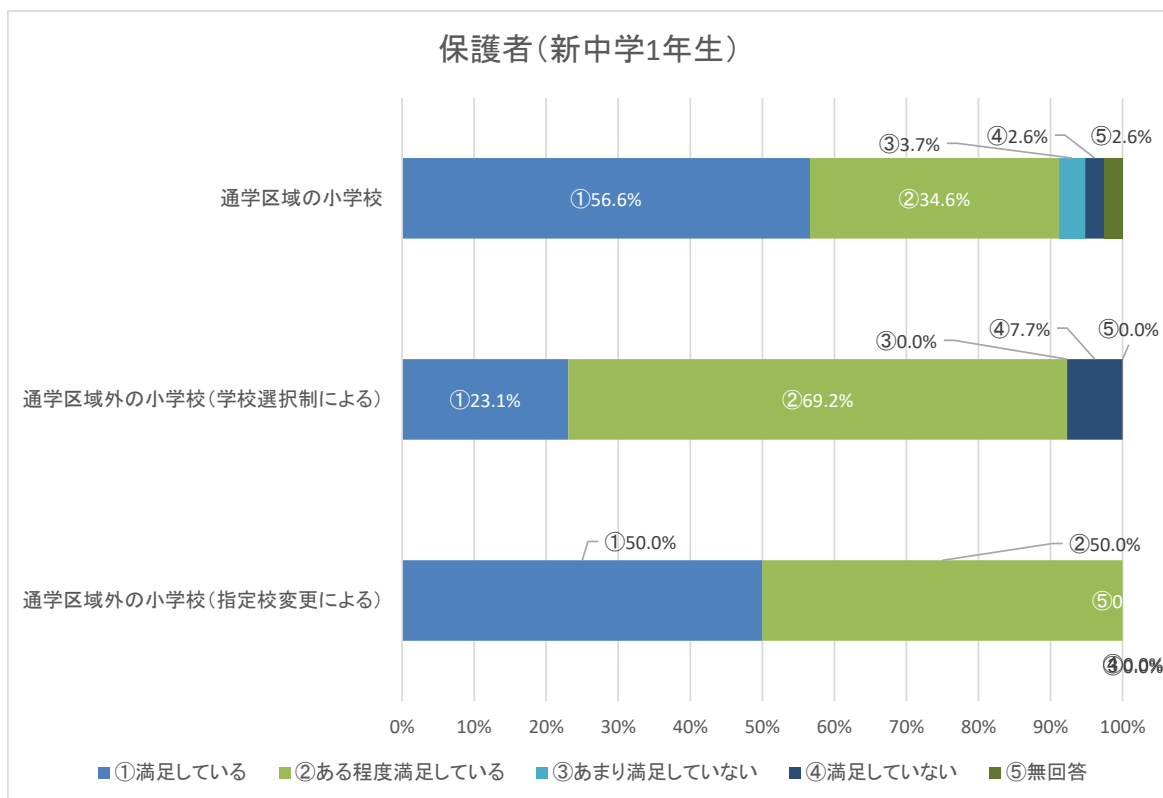
イ) 通学区域・通学区域外別



(分析)
 「思う」「どちらかと言えば思う」との回答が、通学区域の学校を選択した保護者では、小学校で71.2%、中学校で69.5%の方が、良い制度であると回答している。通学区域外の学校を選択した保護者では、小学校で97.5%、中学校で86.6%の方が、良い制度であると回答しており、通学区域の学校を選択した保護者を上回っている。

②あなたのお子さんが卒業した小学校について満足していますか。

【保護者アンケート（新中学1年生）：問19】＜1つだけ回答＞



【理由】

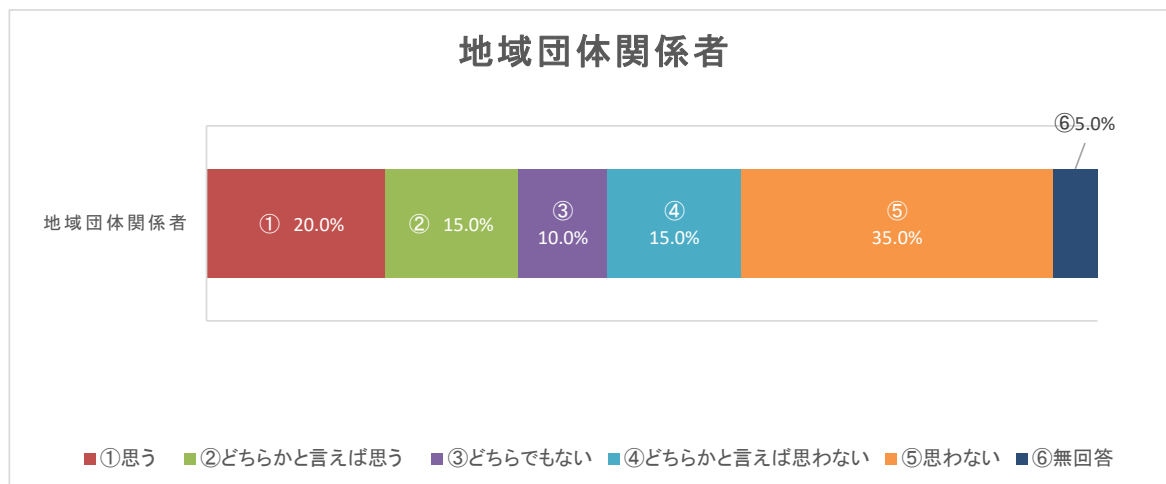
- 「満足している」「ある程度満足している」保護者（新中学1年生）
 - ・子どもが楽しそうにかよっていたため
 - ・先生が熱心に指導してくれ、PTAも子どものためによく動いてくれた
 - ・雰囲気の良い学校だった
- 「満足していない」「あまり満足していない」保護者（新中学1年生）
 - ・トラブルに対する学校の対応に満足していない
 - ・人数が少なかったため、友人が少なかった
 - ・先生の考え方や対応に差があった

（分析）

「満足している」「ある程度満足している」との回答が、通学区域の小学校に就学した児童の保護者で91.2%、通学区域外の小学校に就学した児童の保護者（学校選択制）で92.3%となっており、大きな差はなかった。

③学校選択制は、大阪市の子どもや保護者、大阪市の学校教育にとって良い制度だと思いますか。

【地域団体関係者アンケート：問6】 <1つだけ回答>



【理由】

○「思う」「どちらかと言えば思う」地域団体関係者

- ・地域によっては道1本で学校が変わることがあるので、選択できることはよい
- ・住所に縛られず幼稚園や保育所で仲良くなったお友達と一緒に進学できる
- ・教育への取り組みの良い学校を選べる

○「思わない」「どちらかと言えば思わない」地域団体関係者

- ・学校の人数の偏りが大きくなった
- ・地域として区域外の子どもに知らせたいことがあっても伝えられない
- ・子ども同士が離れていき、地域でのつながりが薄くなっていく

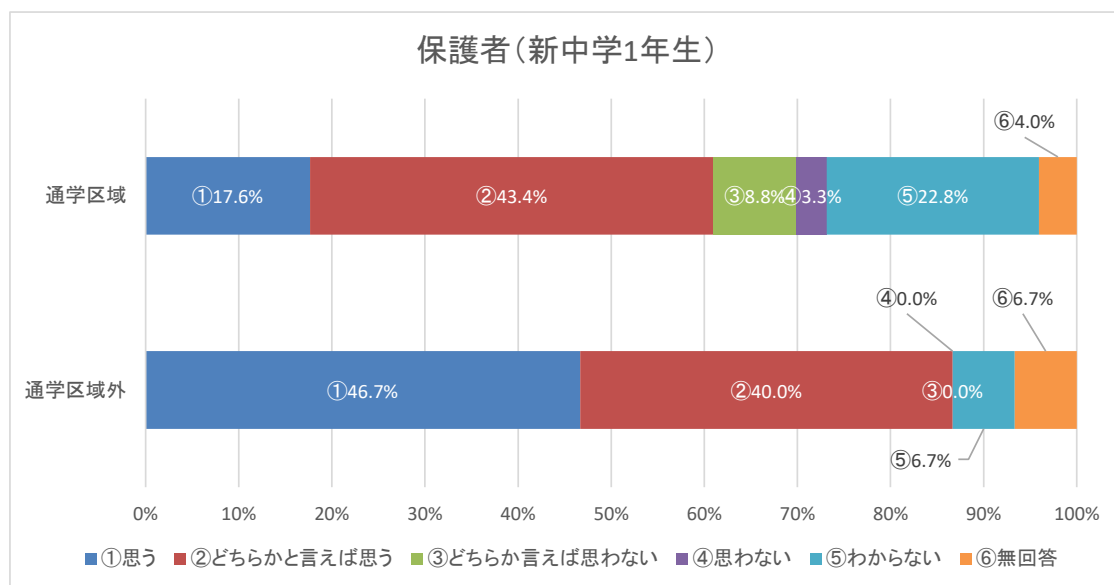
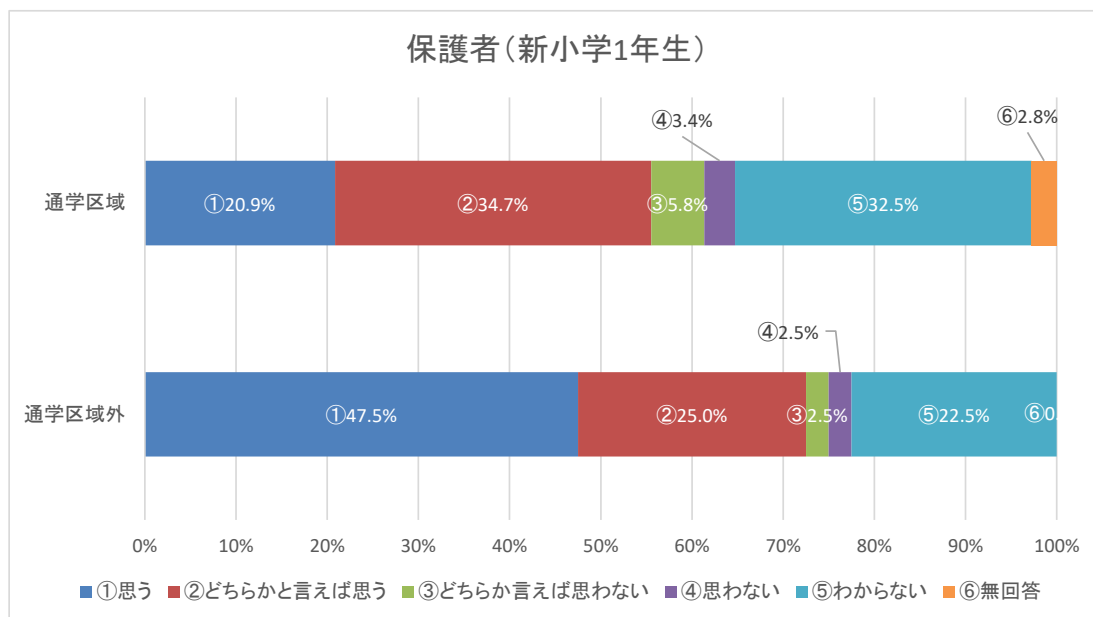
【視点①総括】

学校選択制に対する保護者の満足度は全体的に高く、本制度が肯定的に受け入れられている。一方で、地域関係者にとっては保護者より肯定的な意見が少なく、課題を指摘する方より多い。

【視点②】子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができるか

①学校選択制によって、子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができますか。

【保護者アンケート（新小学1年生）：問18、保護者アンケート（新中学1年生）：問22】<1つだけ回答>



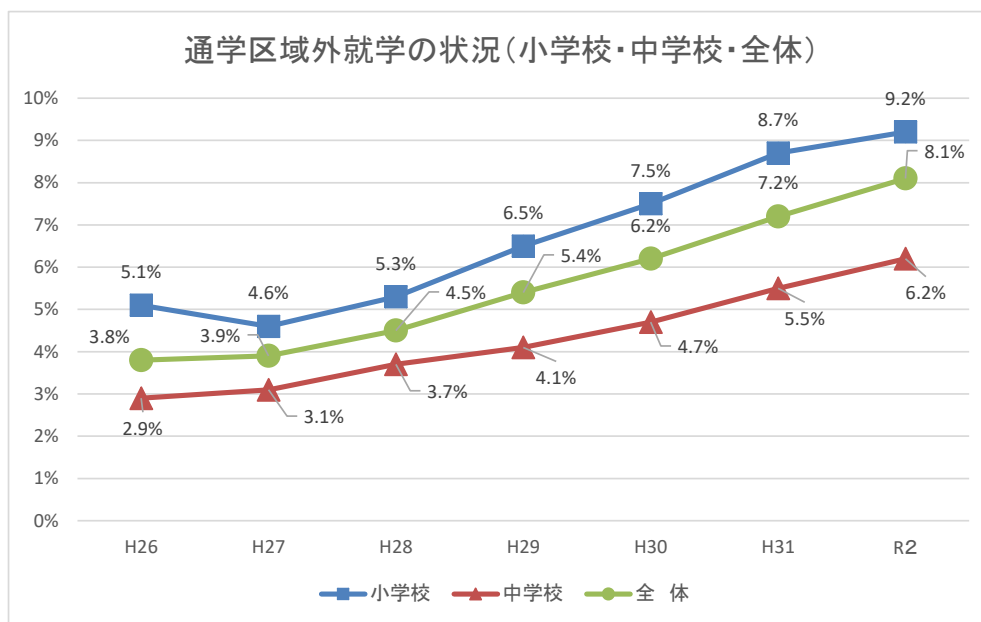
（分析）

「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、通学区域の学校を選択した保護者では、小学校で55.6%、中学校で61.0%の方が、肯定的な回答をしている。通学区域外の学校を選択した保護者では、「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、小学校で72.5%、中学校で86.7%の方が肯定的な回答をしており、通学区域の学校を選択した保護者を上回っている。

②学校選択制による通学区域外の学校への就学の状況

【運用状況データの活用】

大阪市立の小学校・中学校に入学した者のうち、学校選択制で通学区域外の学校に入学した者の割合。



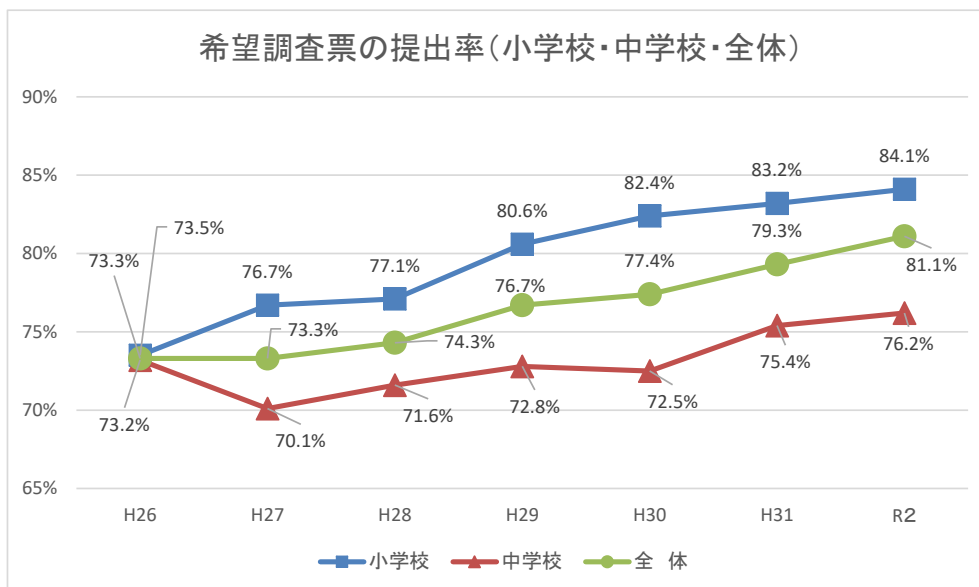
(分析)

学校選択制による通学区域外の学校への就学の状況は、令和2年度の小学校で9.2%、中学校で6.2%、全体で8.1%となっている。制度を導入した平成26年度の全体は3.8%であり、令和2年度では約2倍となっている。

③希望調査票の提出率

【運用状況データの活用】

大阪市立の小学校・中学校に入学した者のうち、学校選択制の希望調査票を提出した者の割合。



(分析)

学校選択制の希望調査票の提出状況は、令和2年度の小学校で84.1%、中学校で76.2%、全体で81.1%となっている。制度を導入した平成26年度の全体は73.3%であり、提出率は増加傾向となっている。

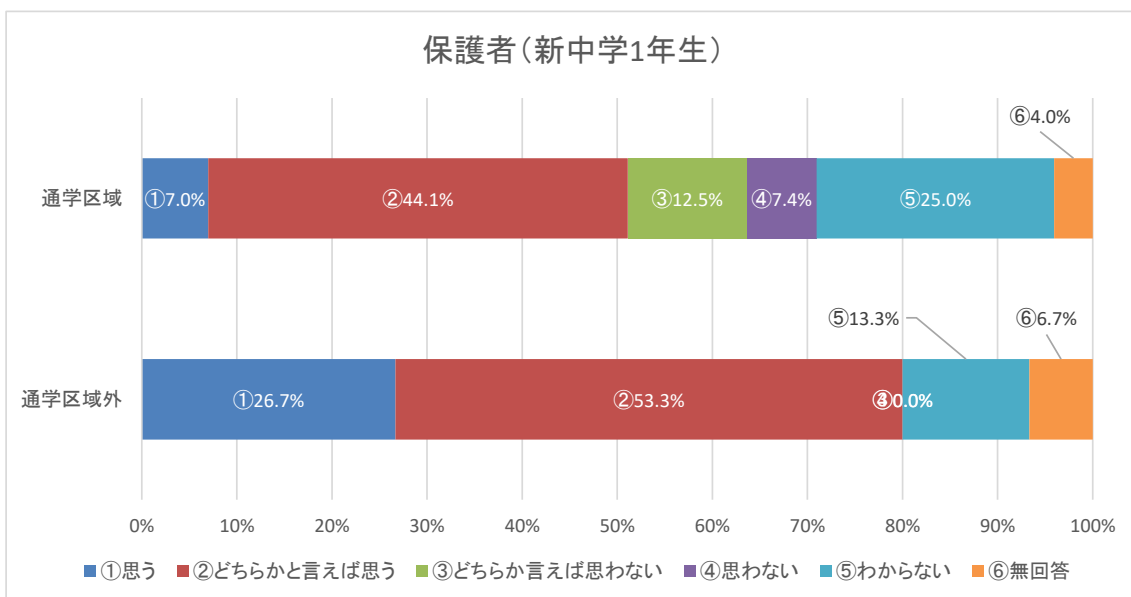
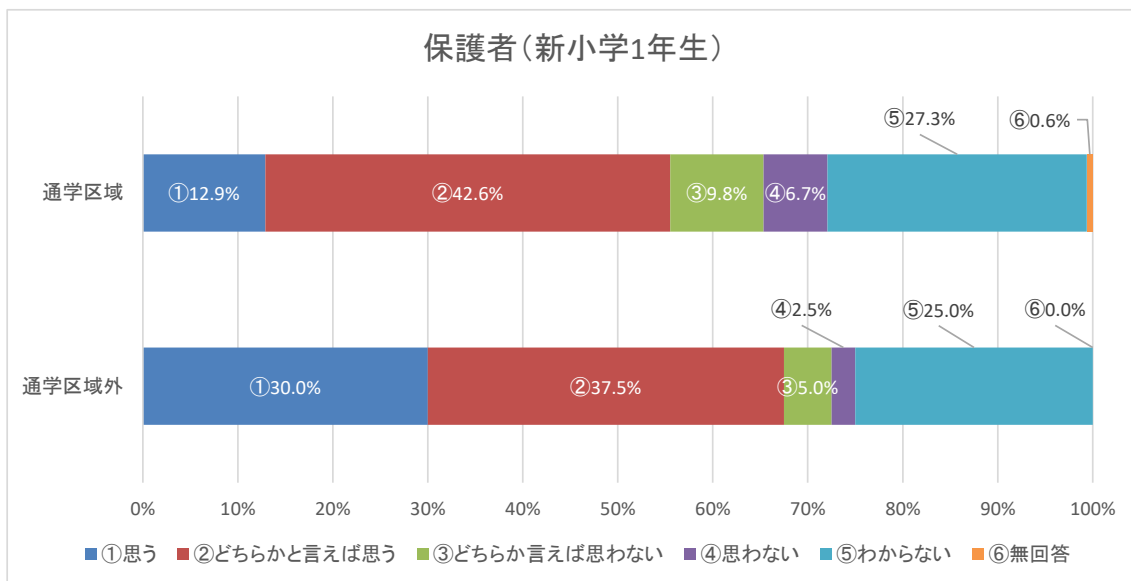
【視点②総括】

「学校選択制によって、子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができるか」については、「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、通学区域外の学校を選択した保護者では、小学校では92.9%の方が肯定的な回答をしている。通学区域外就学や希望調査票の提出率も年々上がっていることから、本制度が広く保護者に浸透しつつある。

【視点③】子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったか

①学校選択制によって、子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったと思いますか。

【保護者アンケート（新小学1年生）：問19、保護者アンケート（新中学1年生）：問23】<1つだけ回答>

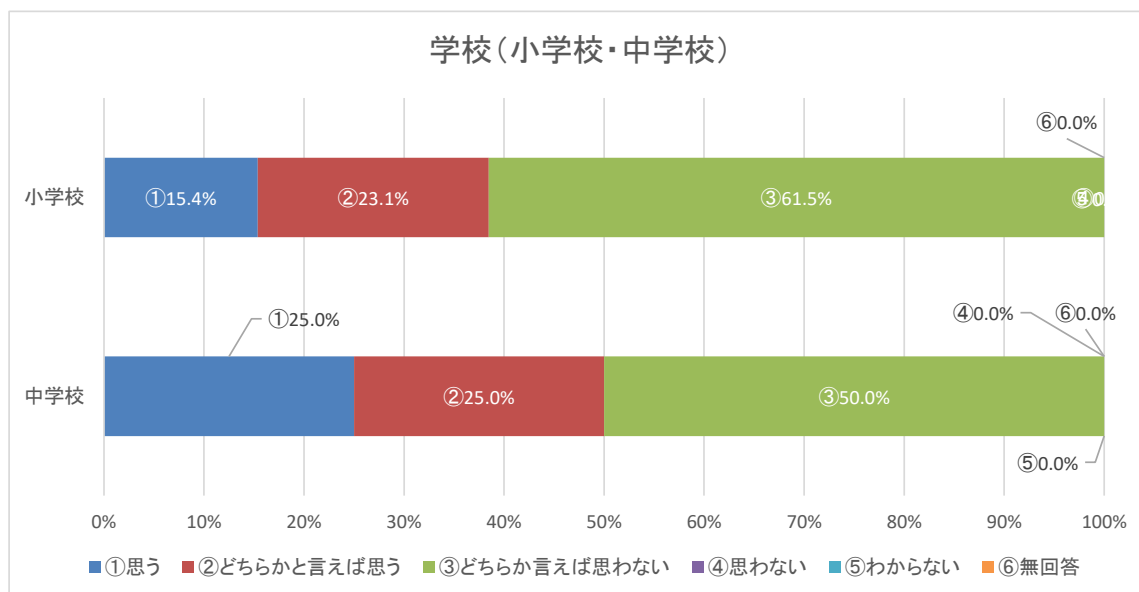


（分析）

「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、通学区域の学校を選択した保護者では、小学校で55.5%、中学校で51.1%の方が、肯定的な回答をしている。通学区域外の学校を選択した保護者では、小学校で67.5%、中学校で80.0%の方が、肯定的な回答をしており、通学区域の学校を選択した保護者を上回っている。

②学校選択制によって、あなたの学校において子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったと思いますか。

【学校状況調査：問1】 <1つだけ回答>



(分析)

「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、小学校で38.5%、中学校で50.0%の方が、肯定的な回答をしている。「どちらでもない」という回答は、小学校で61.5%、中学校で50.0%となっている。

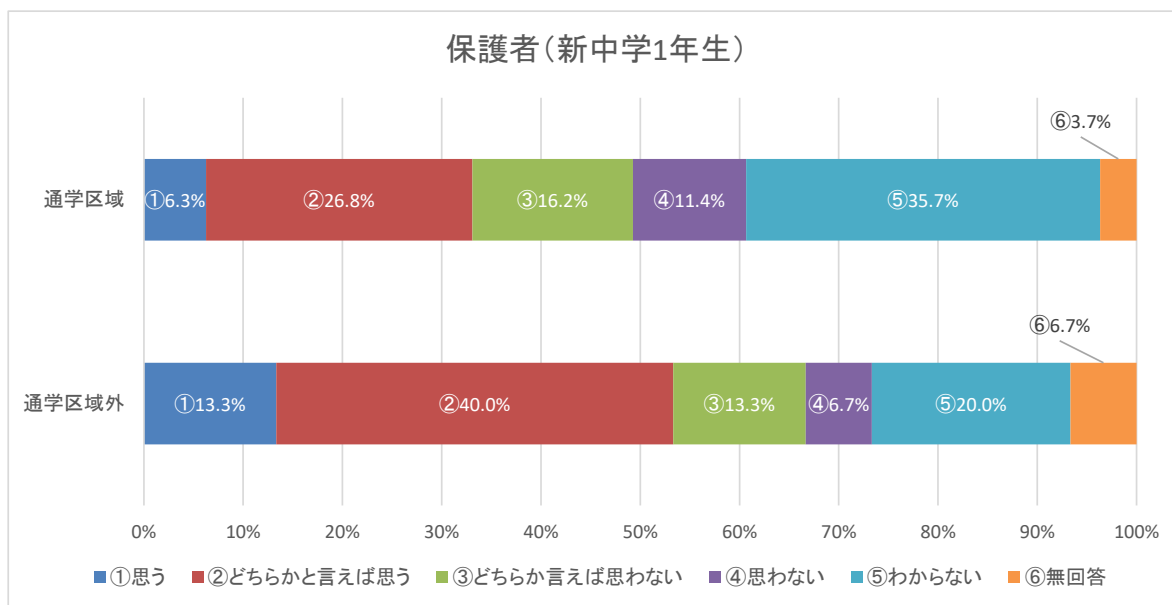
【視点③総括】

「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、通学区域外の学校を選んだ保護者では、小学校で67.5%、中学校では80.0%が、学校選択制によって学校教育に深い関心を持つようになったと答えていることから、学校選択制が保護者にとって学校教育に関心を持つひとつのきっかけになっていると考えられる。

【視点④】 特色ある学校づくりが進んだか

①学校選択制によって、特色ある学校づくりが進んだと思いますか。

【保護者アンケート（新中学1年生）：問24】 <1つだけ回答>

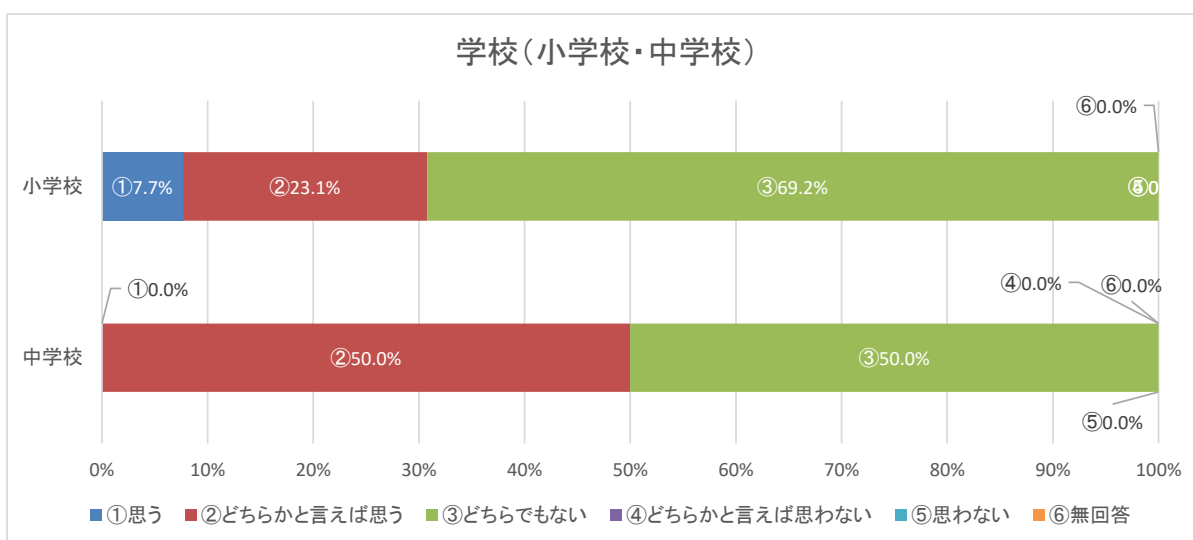


（分析）

「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、通学区域の学校を選択した保護者で33.1%、通学区域外の学校を選択した保護者で53.3%の方が、肯定的な回答をしている。通学区域の学校を選択した保護者で27.6%、通学区域外の学校を選択した保護者で20.0%の方が、「思わない」「どちらかと言えば思わない」と回答している。

②学校選択制によって、あなたの学校における特色ある学校づくりが進んだと思いますか。

【学校状況調査：問3】 <1つだけ回答>



（分析）

「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、小学校で30.8%、中学校で50.0%の方が、肯定的な回答をしている。「どちらでもない」との回答が、小学校で69.2%、中学校で50.0%となっている。

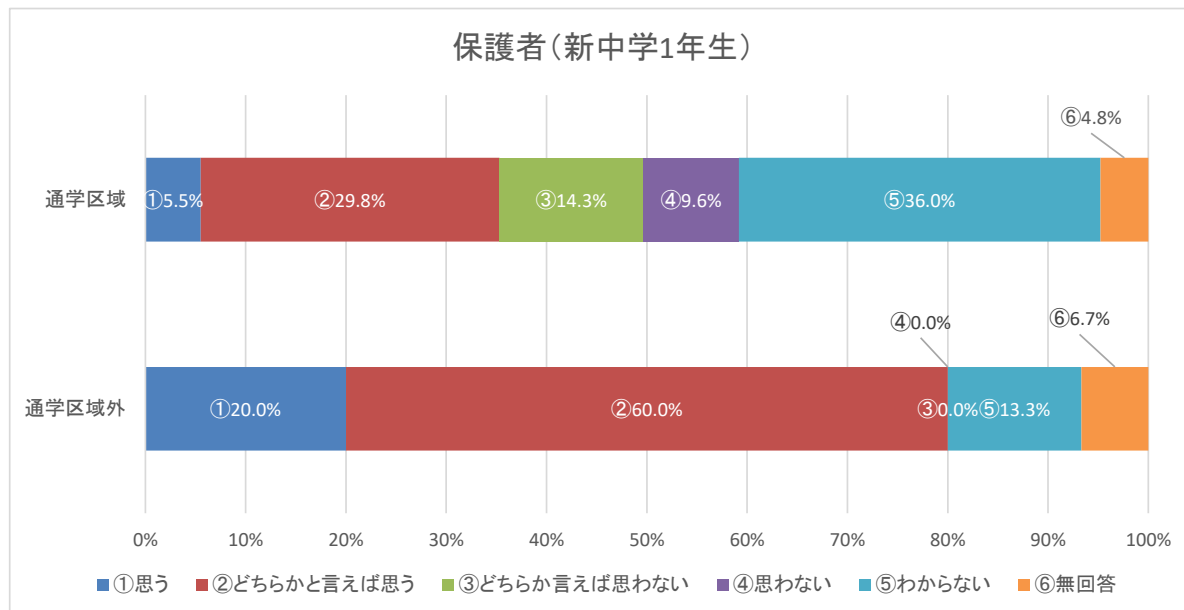
【視点④総括】

学校選択制によって、学校における特色ある学校づくりが進んだと考える保護者は、そうではないと答えた保護者より多い。また、中学校では、半数の学校が「どちらかと言えば思う」と答えており、学校選択制が特色ある学校づくりの一助になっていると考えられる。

【視点⑤】開かれた学校づくりが進んだか

①学校選択制によって、学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み（授業参観、学校公開など）が充実してきたと思いますか。

【保護者アンケート（新中学1年生）：問25】<1つだけ回答>

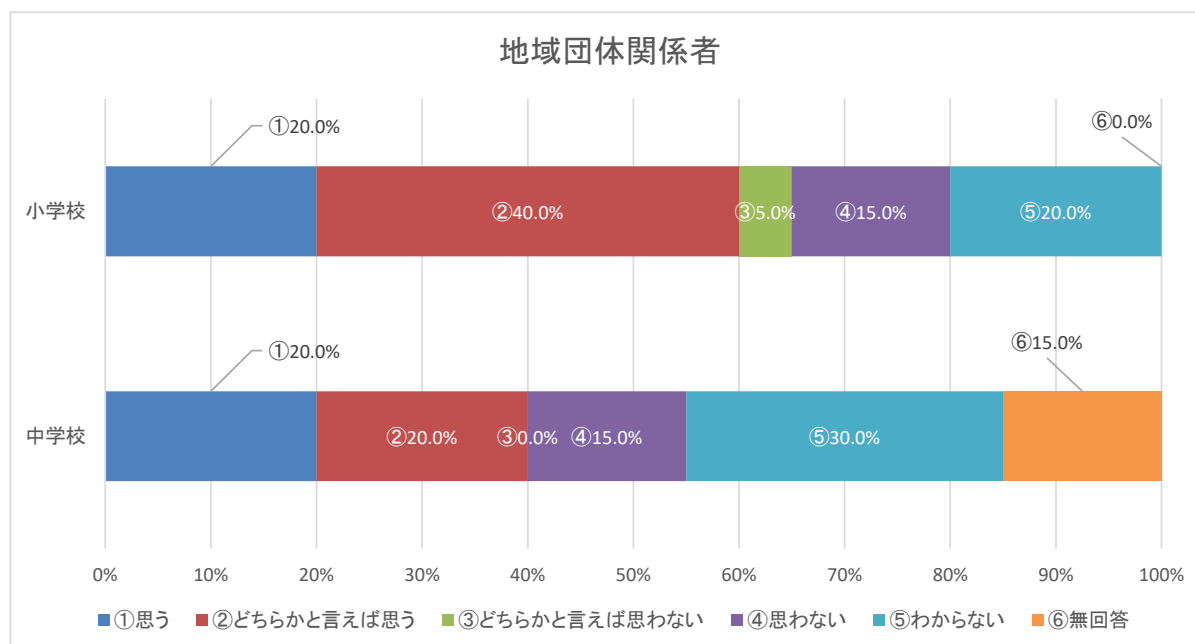


（分析）

「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、通学区域の学校を選択した保護者で35.3%、通学区域外の学校を選択した保護者で80.0%の方が、肯定的な回答をしている。通学区域の学校を選択した保護者で23.9%が「思わない」「どちらかと言えば思わない」と回答した。通学区域外の学校を選択した保護者で否定的な回答をした方はいなかった。

②学校選択制によって、あなたの地域の学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み（授業参観、学校公開等）が充実してきたと思いますか。

【地域団体関係者：問1】<1つだけ回答>

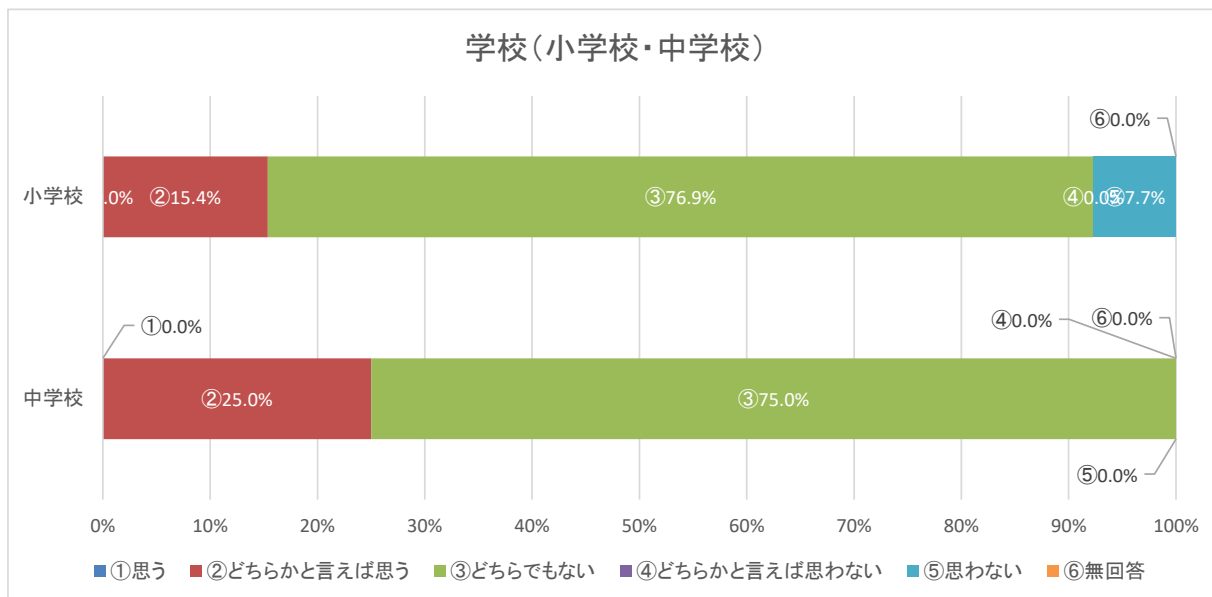


（分析）

「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、小学校で60.0%、中学校で40.0%の方が、肯定的な回答をしている。「どちらかと言えば思う」「思わない」という回答は小学校で20.0%、中学校で15.0%となっている。

③学校選択制によって、あなたの学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み（授業参観、学校公開等）が充実してきたと思いますか。

【学校状況調査：問5】 <1つだけ回答>

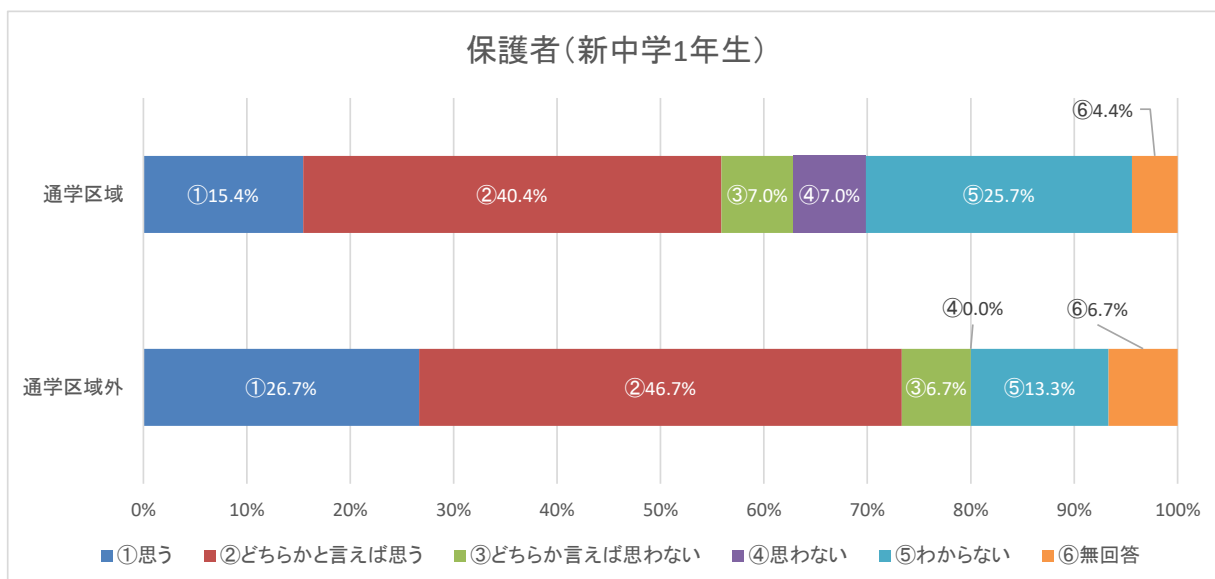


（分析）

小学校で15.4%、中学校で25.0%の方が、「どちらかと言えば思う」と回答している。「どちらでもない」の回答が、小学校で76.9%、中学校で75.0%となっている。

④学校選択制によって、学校における情報発信（学校だより、ホームページの更新など）が充実してきたと思いますか。

【保護者アンケート（新中学1年生）：問26】 <1つだけ回答>

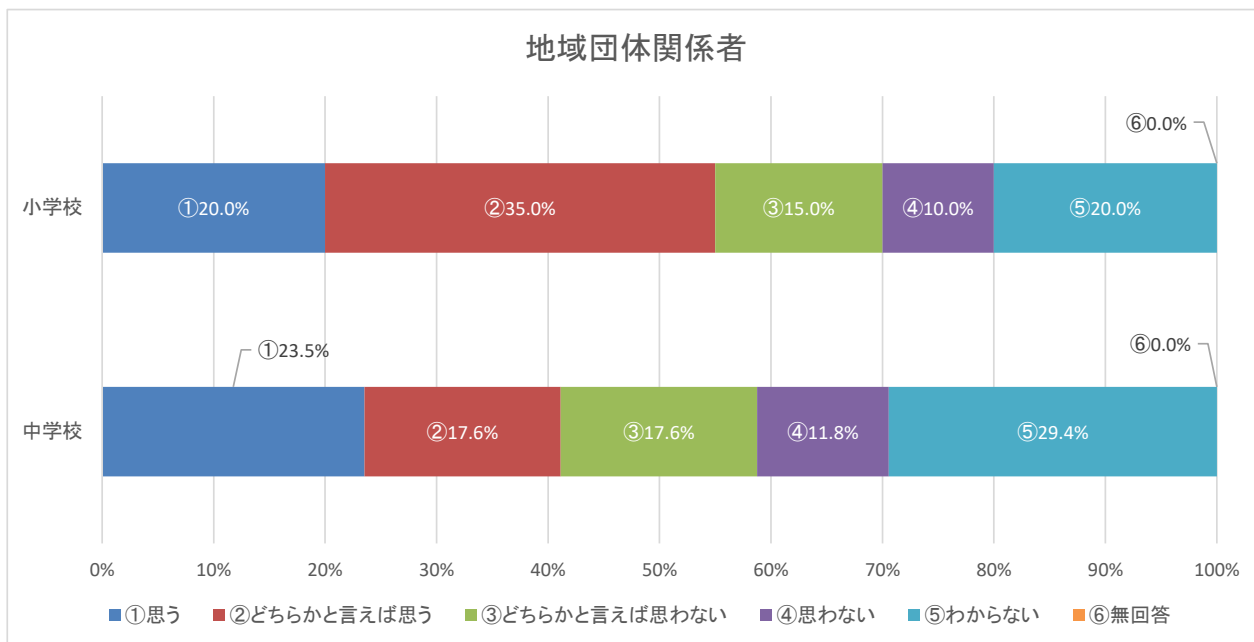


（分析）

「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、通学区の学校を選択した保護者で55.8%、通学区外の学校を選択した保護者で73.4%の方が、肯定的な回答をしている。「思わない」「どちらかと言えば思わない」という回答は、通学区の学校を選択した保護者で14.0%、通学区外の学校を選択した保護者で6.7%となっている。

⑤学校選択制によって、あなたの地域の学校における情報発信（学校だより、ホームページの更新など）が充実してきたと思いますか。

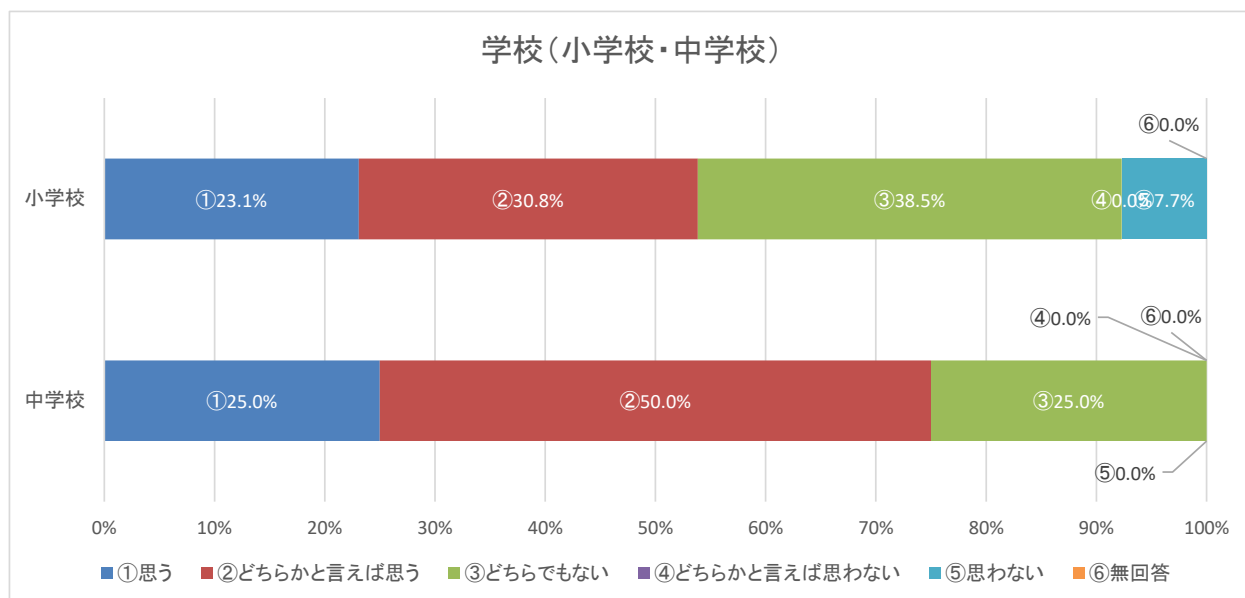
【地域団体関係者：問2】 <1つだけ回答>



（分析）
 「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、小学校で55.0%、中学校で41.1%の方が、肯定的な回答となっている。「思わない」「どちらかと言えば思わない」という回答は、小学校で25.0%、中学校で29.4%となっている。

⑥学校選択制によって、あなたの学校における情報発信（学校だより、ホームページの更新など）が充実してきたと思いますか。

【学校状況調査：問7】 <1つだけ回答>



（分析）
 「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、小学校で53.9%、中学校で75.0%の方が、肯定的な回答となっている。「どちらでもない」の回答が、小学校で38.5%、中学校で25.0%となっている。

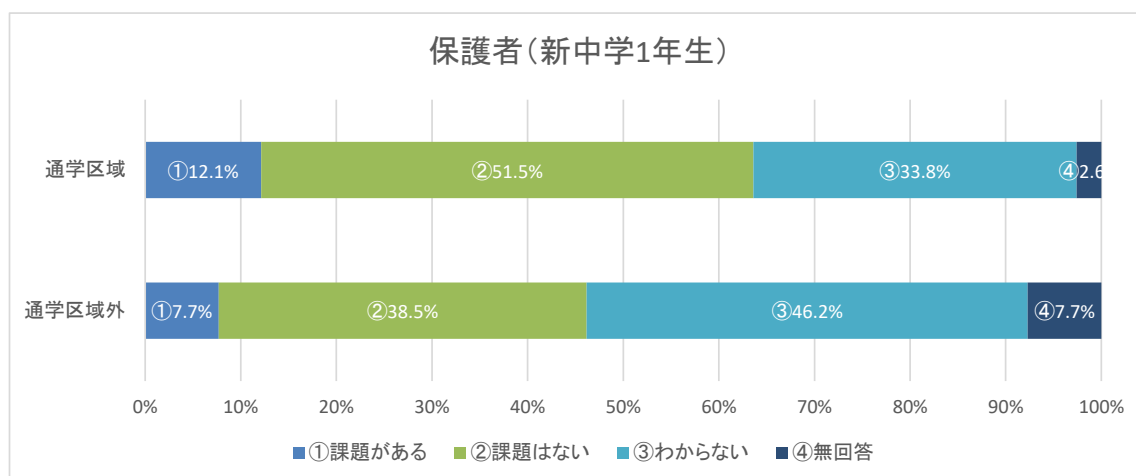
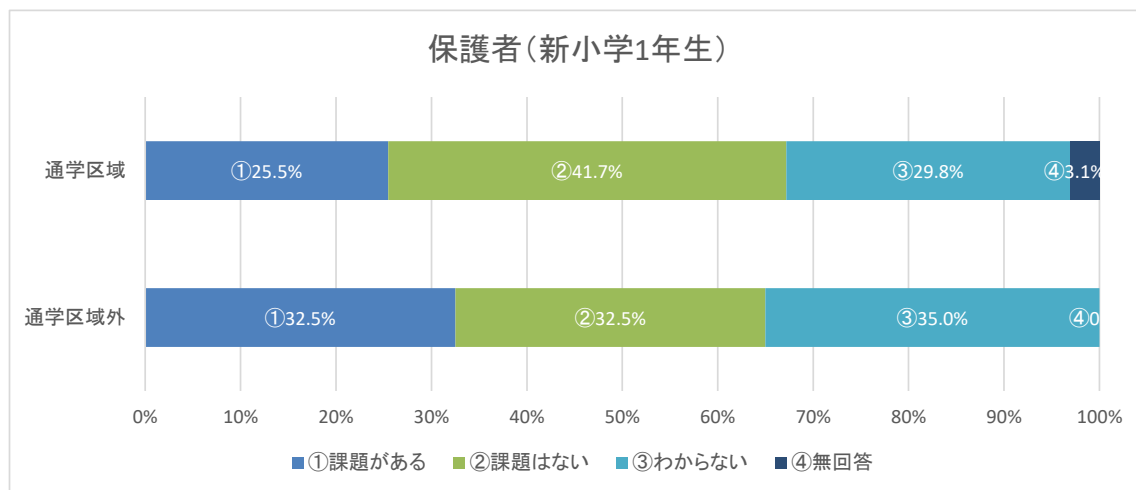
【視点⑤総括】

全ての設問において、肯定的に答えた割合と否定的に答えた割合を比較すると、肯定的に答えた割合の方が大きい。開かれた学校づくりに学校選択制が寄与していると考えられる。
 地域団体関係者のアンケートでは、肯定的な回答の割合が小学校の方が中学校よりも高く、小学校の方がより地域に開かれた学校となっていることがうかがわれる。

【視点⑥】 児童生徒の通学の安全に課題が生じていないか

①あなたのお子さんの通学の安全に課題が生じていると思いますか。

【保護者アンケート（新小学1年生）：問15、保護者アンケート（新中学1年生）：問15】 <1つだけ回答>



【具体的な課題及び改善のアイデア】

○「課題がある」保護者（新小学1年生）

- ・交通量が多く、狭い道では危険だと感じている。
- ・自転車のスピードが速い
- ・人通りの少ないところがある
- ・集団登校をしてほしい

○「課題がある」保護者（新中学1年生）

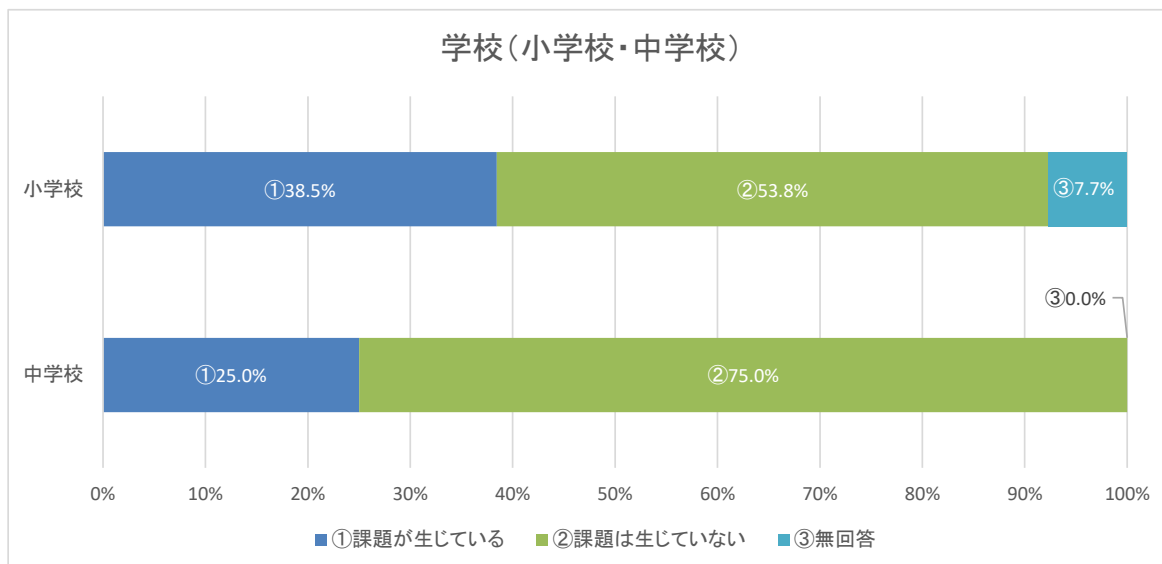
- ・自転車や自動車の交通量が多く、狭い道では危険だと感じている。
- ・信号のない横断歩道を渡る道が通学路になっている
- ・学校が遠く、夕方は部活で帰りが遅くなるので人通りの少ないところが怖い
- ・夏の登下校時は暑いので熱中症予防に帽子があればよい

（分析）

通学区域の学校を選択した保護者では、小学校で25.5%、中学校では12.1%、通学区域外の学校を選択した保護者では、小学校で32.5%、中学校で7.7%が「課題がある」と答えた。「課題がない」「わからない」を合わせて、通学区域の学校を選択した保護者では、小学校で71.5%、中学校で85.3%、通学区域外の学校を選択した保護者では、小学校で67.5%、中学校で84.2%となっており、どちらも「課題がある」という回答を上回っている。

②あなたの学校において、学校選択制により、通学の安全に課題が生じていますか。

【学校状況調査：問9】 <1つだけ回答>



【具体的な課題事例】

- 通学に徒歩20分以上かかる児童があり、安全確保が問題である
- 学校選択によって通学距離が伸びている
- 通学の安全確保のため、校区の境界まで保護者の送迎をお願いしている

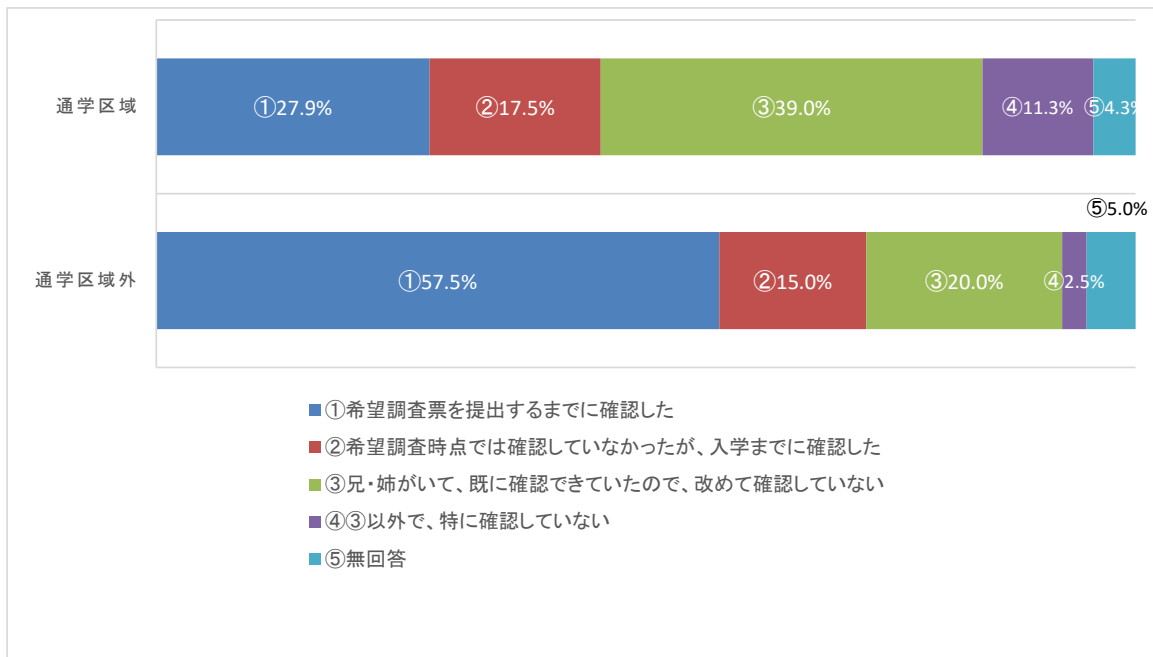
(分析)

小学校では、38.5%、中学校では25.0%が「課題が生じている」と回答しており、「課題は生じていない」と回答したのは、小学校で53.8%、中学校で75.0%となっている。

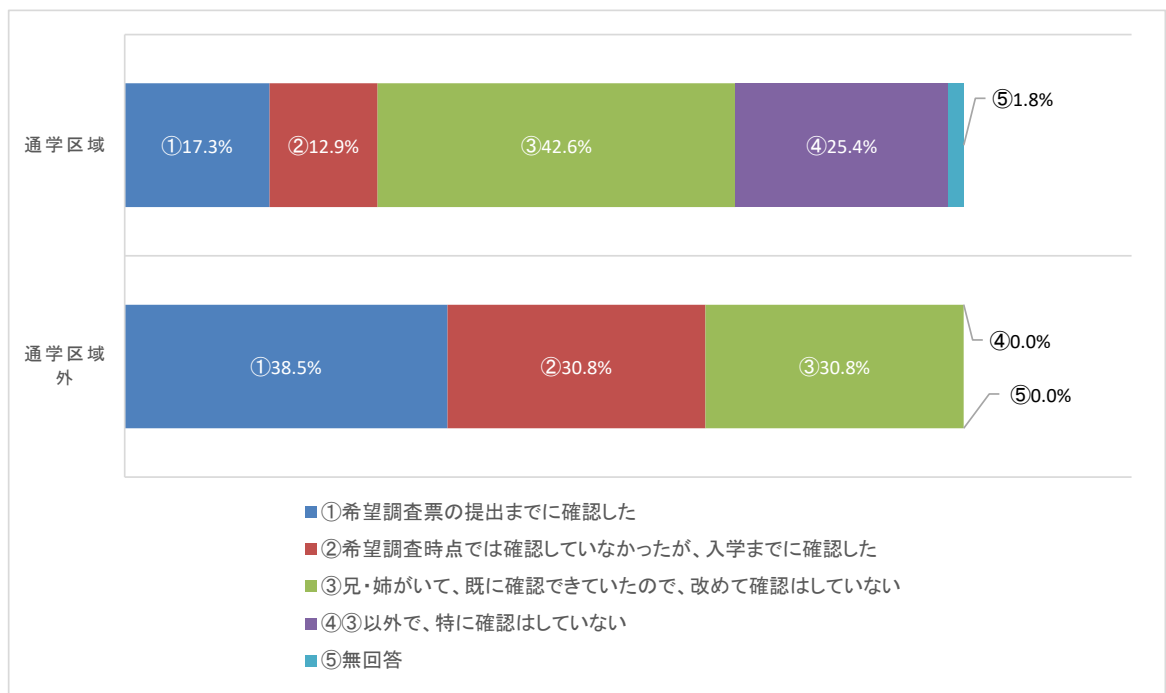
③通学路の安全や通学距離、通学に要する時間等について確認されましたか。

【保護者アンケート（新小学1年生）：問6、保護者アンケート（新中学1年生）：問6】＜1つだけ回答＞

＜保護者（新小学1年生）＞



＜保護者（新中学1年生）＞



（分析）

通学路の安全や通学距離、通学に要する時間等について、通学区域校の小学校を選択した保護者で27.9%、通学区域外の小学校を選択した保護者で57.5%、中学校では通学区域の中学校を選択した保護者で17.3%、通学区域外の中学校を選択した保護者の38.5%が「希望調査票の提出までに確認した」と答えた。

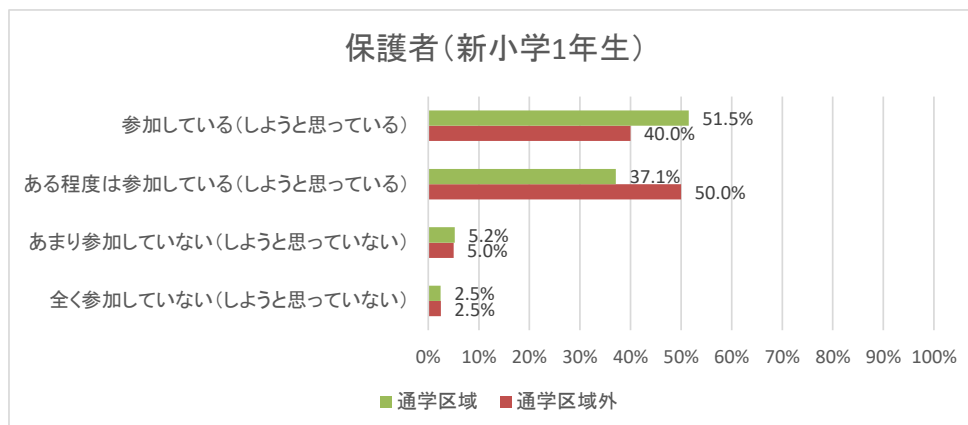
【視点◎総括】

通学区域外の小学校を選択した保護者でも、希望調査票の提出までに通学路の確認を行った割合は60%を下回っている。通学区域・通学区域外に関わらず、通学路は事前に確認するよう呼びかけを強化する。

【視点⑦】 学校と地域、保護者の連携に課題が生じていないか

①あなたは、お子さんが通っている学校の行事（運動会、授業参観など）や、PTAの活動（親子レクリエーション、登下校の見守りなど）に参加していますか、又は今後参加しようと思っていますか。

【保護者アンケート（新小学1年生）：問13、保護者アンケート（新中学1年生）：問13】 <1つだけ回答>



【理由】

○「参加している」「ある程度は参加している」保護者（新小学1年生）

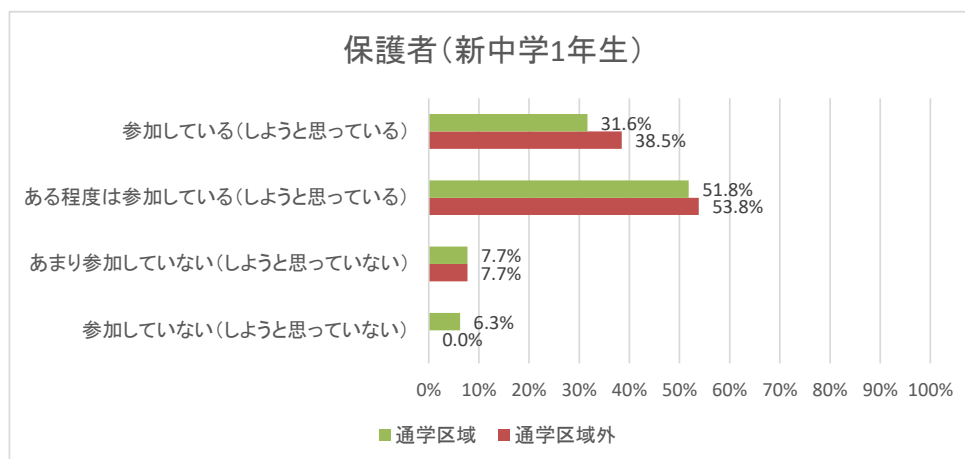
- ・子どもの普段の様子が見られるから
- ・保護者同士のコミュニケーションを図るため

○「全く参加していない」「あまり参加していない」保護者（新小学1年生）

- ・仕事があり時間をとるのが難しい
- ・下の子が小さいため

（分析）

「参加している（しようと思っている）」「ある程度参加している（しようと思っている）」を合わせて、通学区域の学校を選択した保護者で88.6%、通学区域外の学校を選択した保護者で90.0%の方が、肯定的な回答をしている。



【理由】

○「参加している」「ある程度は参加している」保護者（新中学1年生）

- ・子どもの普段の様子が見られるから
- ・先生とのコミュニケーションを図るため

○「参加していない」「あまり参加していない」保護者（新中学1年生）

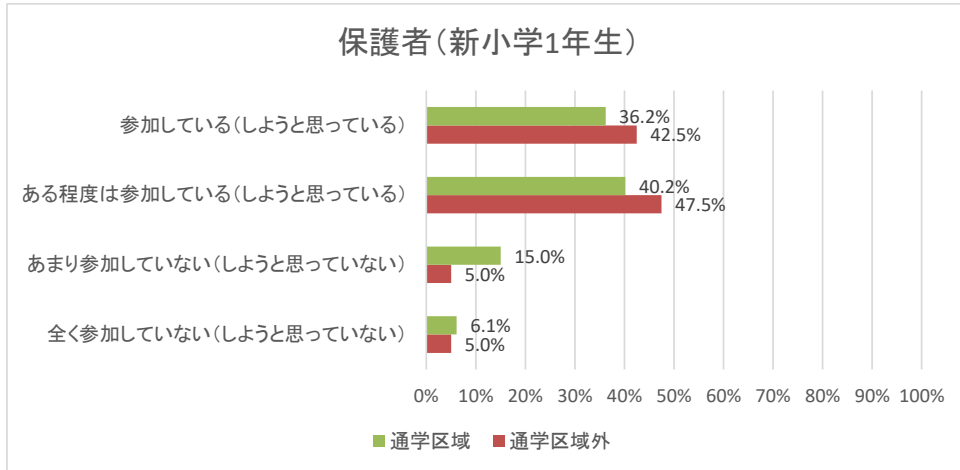
- ・仕事があり時間をとるのが難しい
- ・ほかの保護者とコミュニケーションをとるのが苦手

（分析）

「参加している（しようと思っている）」「ある程度は参加している（しようと思っている）」を合わせて、通学区域の学校を選択した保護者で83.4%、通学区域外の学校を選択した保護者で92.3%の方が、肯定的な回答をしている。

②あなたのお子さんは、住んでいる地域の行事（祭り等）に参加していますか、又は今後参加しようと思っ
ていますか。

【保護者アンケート（新小学1年生）：問14、保護者アンケート（新中学1年生）：問14】＜1つだけ回答＞



【理由】

○「参加している」「ある程度は参加している」保護者（新小学1年生）

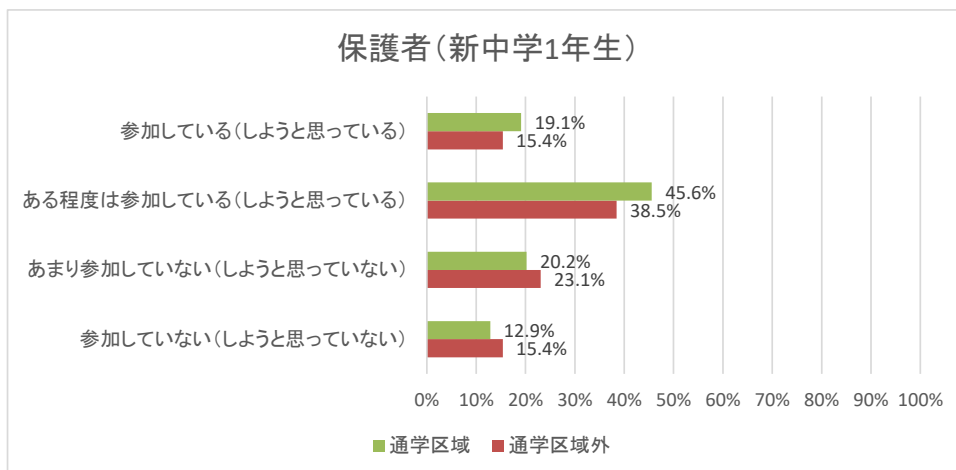
- ・子どもが楽しみにしているから
- ・地域の方と交流することが楽しいから

○「全く参加していない」「あまり参加していない」保護者（新小学1年生）

- ・習い事や家庭の都合で参加できない
- ・どのような行事をしているのか分からない

（分析）

「参加している（しようと思っている）」「ある程度は参加している（しようと思っている）」を合わせて、通学区域の学校を選択した保護者で76.4%、通学区域外の学校を選択した保護者で90.0%の方が、肯定的な回答をしている。



【理由】

○「参加している」「ある程度参加している」保護者（新中学1年生）

- ・楽しそうだから
- ・友人と外で会うのが楽しいから
- ・地域の方や異年齢の方とふれあえる機会だから

○「参加していない」「あまり参加していない」保護者（新中学1年生）

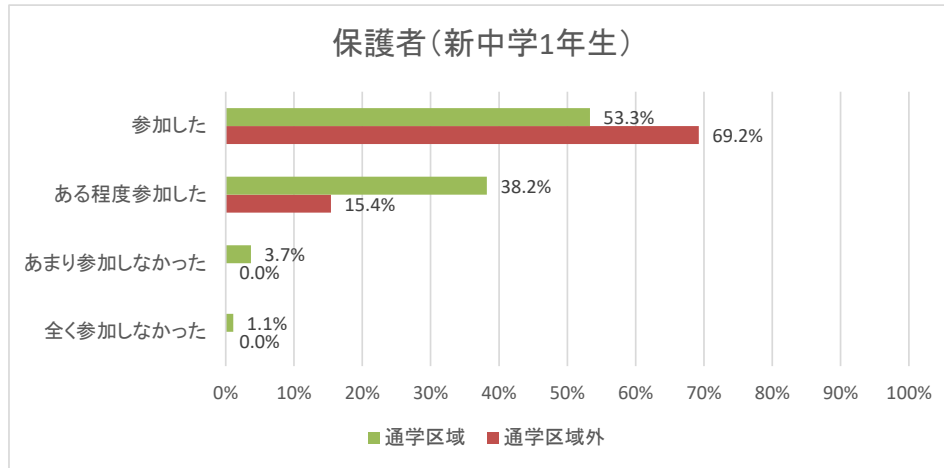
- ・習い事や家庭の都合で参加できない
- ・子どもが行きたがらない

（分析）

「参加している（しようと思っている）」「ある程度は参加している（しようと思っている）」を合わせて、通学区域の学校を選択した保護者で64.7%、通学区域外の学校を選択した保護者で53.9%の方が、肯定的な回答をしている。

③あなたは、お子さんが卒業した小学校の行事（運動会、授業参観など）や、PTAの活動（親子レクリエーション、登下校の見守りなど）にどの程度参加しましたか。

【保護者アンケート（新中学1年生）：問20】<1つだけ回答>



【理由】

○「参加した」「ある程度参加した」保護者（新中学1年生）

- ・子どもの様子や成長を見たかったから
- ・PTAの役員、当番になったから

○「全く参加しなかった」「あまり参加しなかった」保護者（新中学1年生）

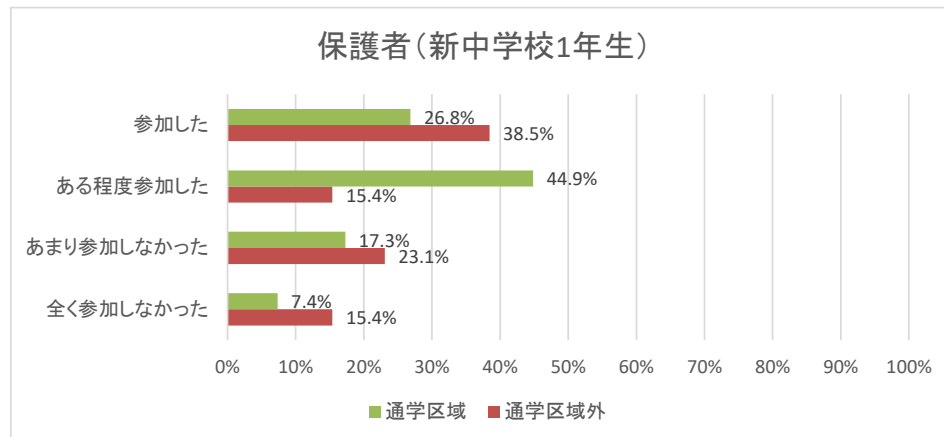
- ・仕事の都合でPTA活動にはあまり参加できなかった
- ・ほかの保護者とのコミュニケーションが苦手なため

【分析】

「参加していた」「ある程度参加した」との回答が、通学区域の学校を選択した保護者で91.5%、通学区域外の学校を選択した保護者で84.6%となっている。

④あなたのお子さんは、小学校のときに住んでいる地域の行事（祭り等）に参加していましたか。

【保護者アンケート（新中学1年生）：問21】<1つだけ回答>



【理由】

○「参加した」「ある程度参加した」保護者（新中学1年生）

- ・子供会に加入していたため
- ・友人同士集まって参加していた
- ・参加することで、さまざまな人とふれあえるから

○「全く参加しなかった」「あまり参加しなかった」保護者（新中学1年生）

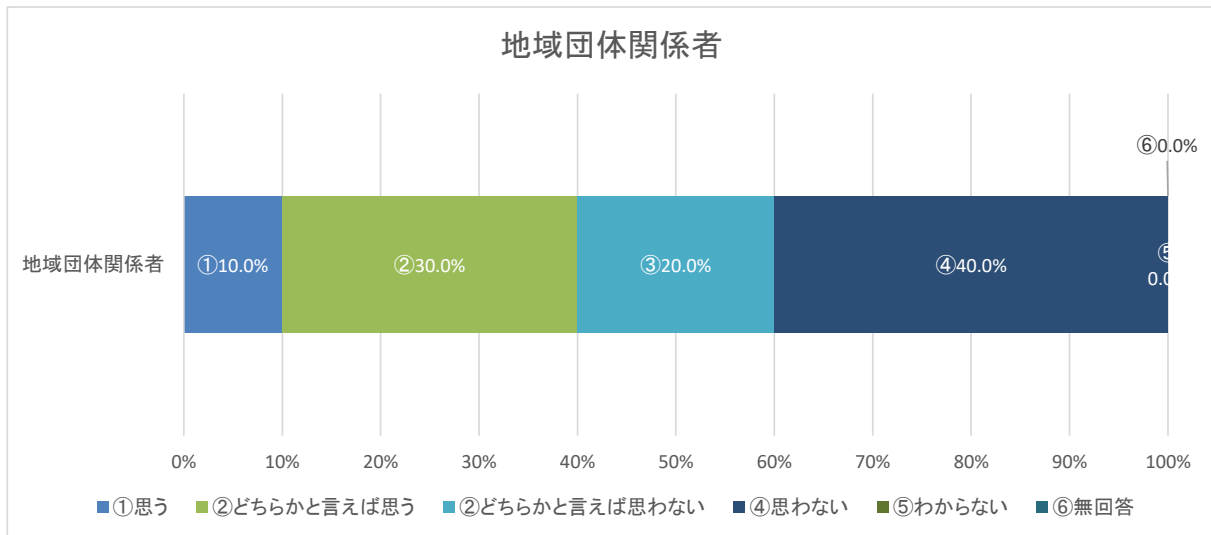
- ・習い事や家庭の都合
- ・子どもが行きたがらなかった

【分析】

「参加した」「ある程度参加した」との回答が、通学区域の学校を選択した保護者で71.7%、通学区域外の学校を選択した保護者で53.9%となっている。

⑤「地域の繋がりが薄くなっている」という意見がありますが、あなたはごどう思ひますか。

【地域団体関係者アンケート：問3】 <1つだけ回答>



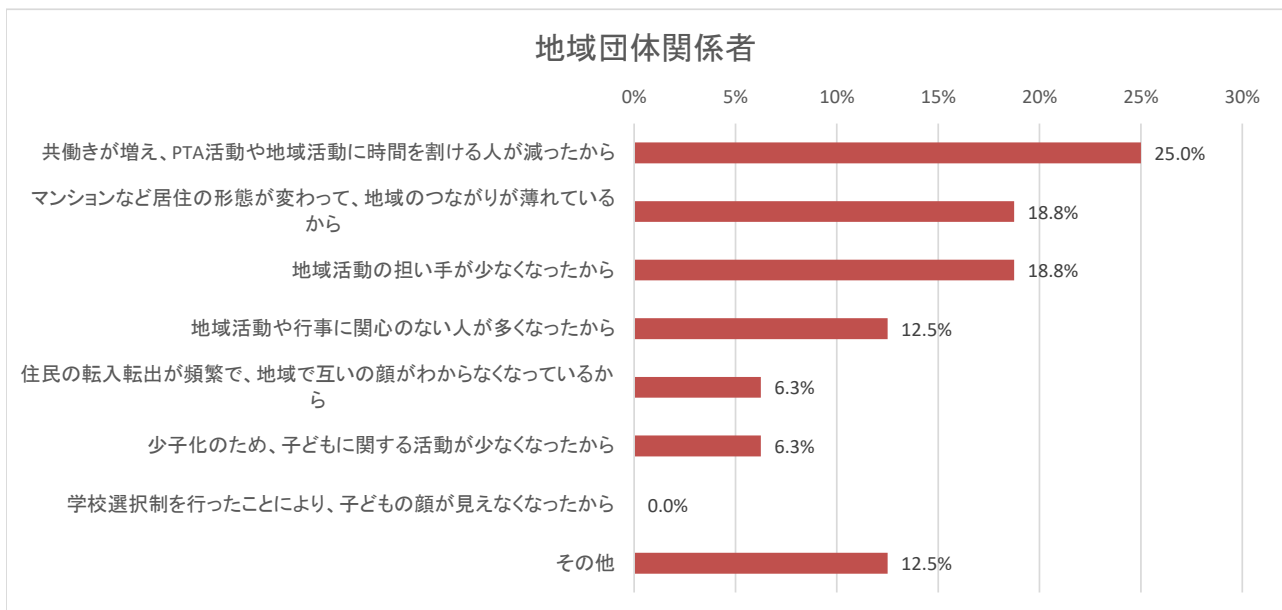
(分析)

「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、40.0%の方が、地域の繋がりが薄くなっていると回答をしている。

⑥上記の設問で「思う」「どちらかと言えば思う」とお答えいただいた方にお尋ねします。

それは何が原因だと思いますか。

【地域団体関係者アンケート：問4】 <3つまで回答可>

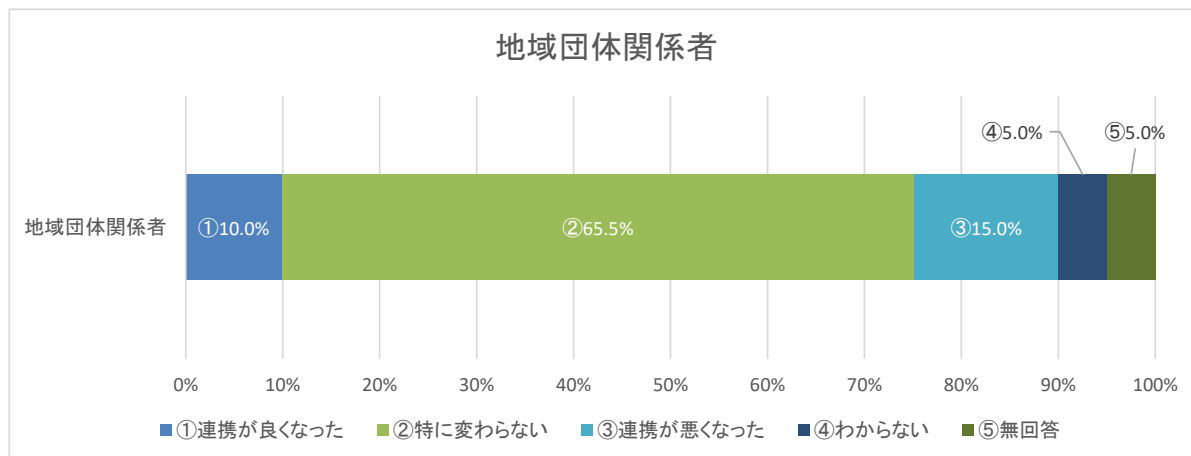


(分析)

「共働きが増え、PTA活動や地域活動に時間を割ける人が減ったから」との回答が25.0%、「マンションなど居住の形態が変わって、地域のつながりが薄れているから」と「地域活動の担い手が少なくなったから」との回答がいずれも18.8%、「地域活動や行事に関心のない人が多くなったから」との回答が12.5%となっている。

⑦学校選択制の導入により、あなたの地域における学校と地域の連携にどのような影響がありましたか。

【地域団体関係者アンケート：問5】 <1つだけ回答>



【そのように考えた具体的な出来事など】

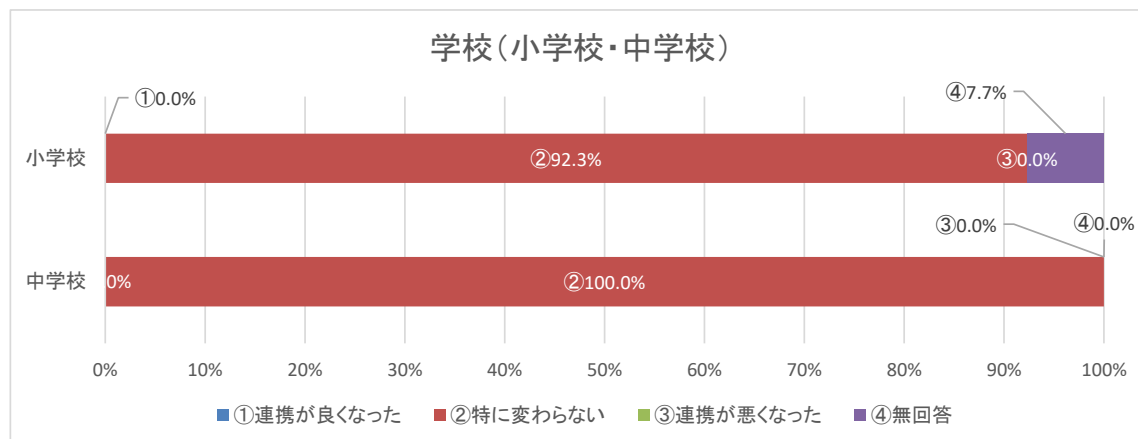
- 学校と地域の連携は変わっていない
- 児童の登校や下校見守り等、各町会の役員が積極的に参加してくれている

（分析）

「特に変わらない」との回答が65.5%、「連携が悪くなった」との回答は15.0%、「連携が良くなった」との回答は10.0%であった。

⑧学校選択制の導入により、あなたの学校における学校と地域、保護者の連携にどのような影響がありましたか。

【学校状況調査：問11】 <1つだけ回答>



【そのように考えた具体的な出来事など】

- 学校選択制の導入に関わりなく、学校と地域、保護者の連携は変わらない
- 地域の見守り隊の方々は校区内・外に関わらず登校を見守り、声をかけていただいている

（分析）

「特に変わらない」との回答が、小学校で92.3%、中学校で100%となっている。

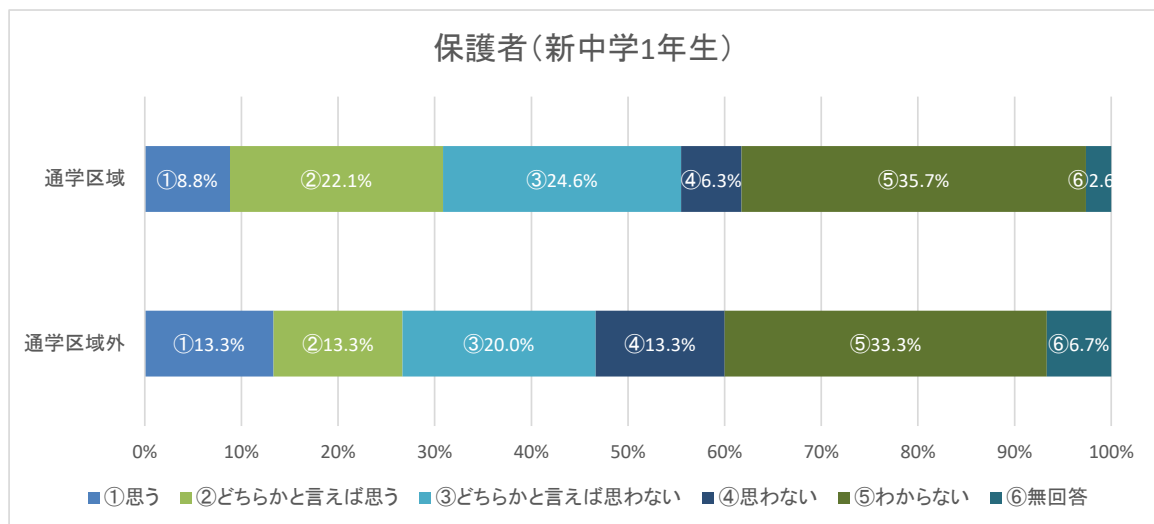
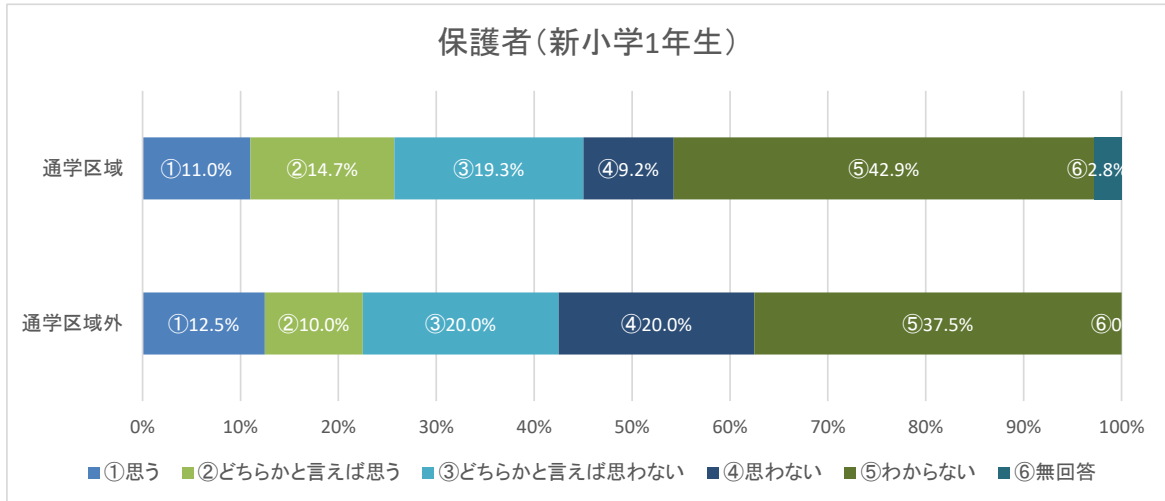
【視点の総括】

学校選択制の導入により、地域における学校と連携は「特に変わらない」と答えた地域関係者は65.5%、小学校は92.3%、中学校は100%となっており、学校と地域、保護者の連携については学校選択制導入以前から変化は少ない。

【視点⑧】 区や学校が提供する情報ではなく、風評等による学校の選択がなされていないか

①大阪市では、学校案内や学校説明会、学校公開等において、各校の情報を提供しています。あなたや他の方も含め、風評（うわさ）等による学校の選択が行われていると思いますか。

【保護者アンケート（新小学1年生）：問16、保護者アンケート（新中学1年生）：問16】 <1つだけ回答>



【具体的な風評の内容】

○「思う」「どちらかと言えば思う」保護者（新小学1年生）

- ・学校の雰囲気、職員の対応など
- ・学校によって、学習の進め方に差があると聞いた

○「思う」「どちらかと言えば思う」保護者（新中学1年生）

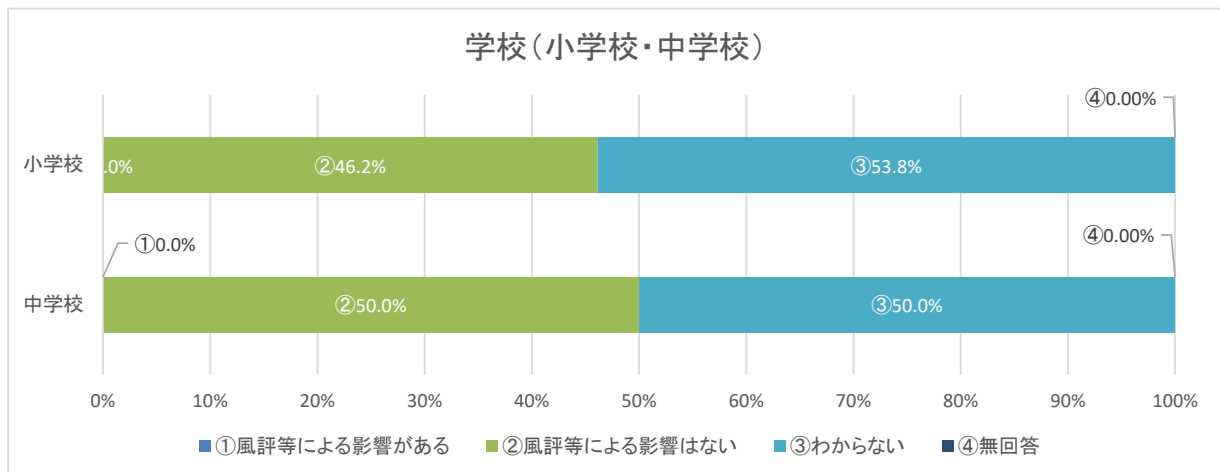
- ・学校の雰囲気、職員の対応など
- ・部活動の様子
- ・学力の差や風紀について

（分析）

「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、通学区域の学校を選択した保護者では、小学校で25.7%、中学校で30.9%の方が、肯定的な回答をしている。通学区域外の学校を選択した保護者では、小学校で22.5%、中学校で26.6%の方が、肯定的な回答をしている。

②区や学校が提供する情報ではない風評（うわさ）等による学校選択によって、あなたの学校に影響がありますか。

【学校状況調査：問12】 <1つだけ回答>



【具体的な出来事等】

なし

(分析)

「風評等による影響はない」との回答が、小学校で53.8%、中学校で50%となっている。

③学校選択にあたり、区役所や学校から提供されていた情報のほかに、どのような情報があればよかったですか。

【保護者アンケート（新小学1年生）：問17、保護者アンケート（新中学1年生）：問17】 <自由記述>

○保護者（新小学1年生）

- ・実際に通学している児童や保護者の声
- ・制服、体操服、帽子など購入が必要なもの
- ・実際の授業の様子
- ・学校の設備

○保護者（新中学1年生）

- ・実際に通学している生徒や保護者、卒業生の声
- ・部活動の情報の詳細
- ・学校の学力と進学先

(分析)

小学校、中学校とも、学校選択にあたり、区役所や学校から提供された情報のほかには、在校生や卒業生の意見などの情報があれば良かったとの回答が多かった。

【視点⑧総括】

小学校では、通学区域の学校を選択した保護者と通学区域外の学校を選択した保護者の3割、中学校では通学区域の学校を選択した保護者の2割以上、通学区域外の学校を選択した保護者の3割が、風評等による学校選択が行われていると思うと回答している。

具体的な内容としては、「学校の雰囲気、職員の対応」「学習の進め方」、中学校では「部活動」が挙げられた。

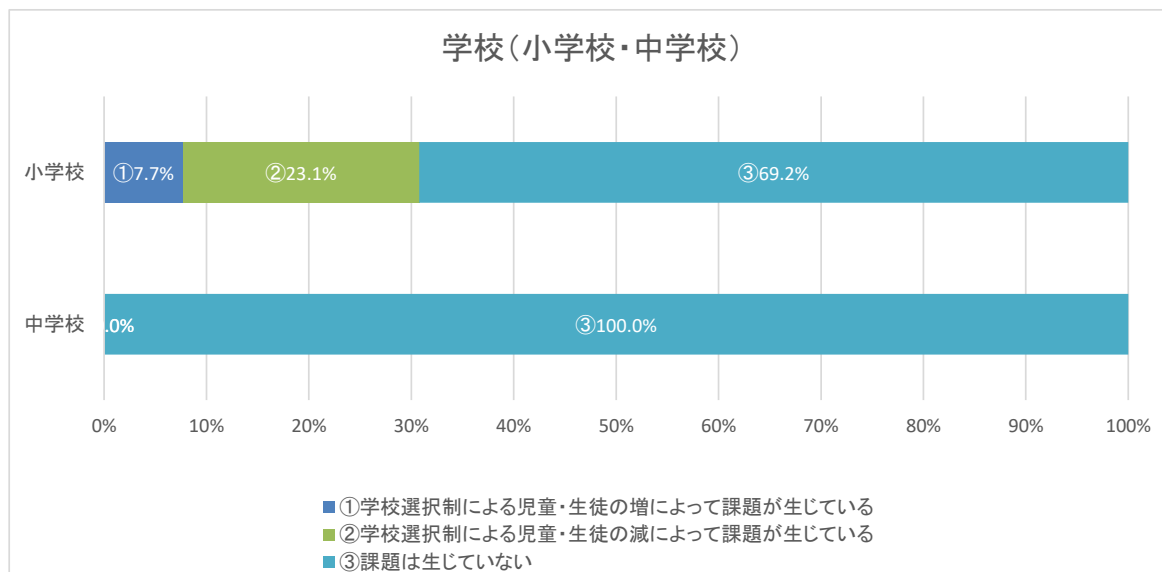
小学校・中学校ともに、全校が風評等による学校選択制によって「影響がない」「わからない」と答え、保護者と学校の認識に差が見られた。

小学校、中学校とも、学校選択にあたり、区役所や学校から提供された情報のほかには、在校生と卒業生や保護者の意見などの情報があれば良かったという回答が多かった。

【視点⑨】 学校選択制による児童生徒数の増減で、教育的課題が生じていないか

①学校選択制による児童・生徒の増減によって、あなたの学校に教育的課題が生じていますか。

【学校状況調査：問13】 <1つだけ回答>



【理由】

- ・単学級の学年が増加傾向にある
- ・学校選択制を利用した特別支援学級への希望者が増加傾向にあるように思う

(分析)

「学校選択制による児童・生徒の増によって課題が生じている」との回答が、小学校で7.7%、中学校で0%、「学校選択制による児童・生徒の減によって課題が生じている」との回答が、小学校で23.1%、中学校で0%となっている。

【視点⑨総括】

小学校の30.8%が児童数の増減によって教育的課題が生じていると答えているが、中学校では全校が課題は生じていないと答えている。